

草津市立矢倉小学校通信 令和元年11月1日 NO.12



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

ぽっかぽかさがし・・・お話、聞かせて

2年生の道徳で「親切」をテーマに、その人のことを思いやって自分が何かできたこと、逆に、自分がしてもらったことを出し合い学習した。「親切にしたり、親切にしてもらったりして、気持ちげぽっかぽか気分になったときのことを聞きあいっこしよう。」と投げかけると、子どもたちは次々と体験談を紹介していった。

トイレのスリッパがそろえてあったこと／こけたときにお兄ちゃんが「だいじょうぶ？」と聞いてくれたこと／班長さんが分団をまとめてくれること／給食委員の人が放送でいつもご飯の説明をしてくれること／お風呂から出たときに新しいタオルが置いてあること等々、さまざまなシーンが紹介されていった。

そんな中に、保健の先生がやさしいことというのがあった。これを紹介した子にどういうことなのか、もう少し説明してほしいと促すと、先生にお話を聞いてもらうことが心地よくて心がぽっかぽかになるらしい。

確かに、しんどいと告げてもそんなことくらい我慢しなさい、大げさだと取り合ってくれないとしたらどうだろう。誰もみてもらおうと思わない、否、思えないだろう。つまり、どんなに小さな痛みであったとしても、しっかりと受けとめてくれるかどうかで、その痛みが癒されるのか、ますますひどくうずくのか、天と地との開きが生まれてしまうのである。

さらに子どもたちからは、電気や電波があることや、虫が花粉を運んで実を結び・・・木や自然も・・・などが出てきた。科学者が自然の摂理、そのありがたさについて、世に訴えかけるようなことまで語られていった。

台風、地震、大きな事故や事件などの人災、自然災害などにより、なんでもない日常がもろくも崩れ去ってしまうのを目の当たりにすることが多くなった。やってもらって当たり前、あって当たり前と思えることでも、あらためてじっくりとらえなおし、ねうちを見いだしていけるのは、余程心に余裕がないとできないのではないか。見方を変えれば、これほど幸せなことはないのではないかと思えてくる。日々のくらしの小さなことにも目を向け、心を動かし、ぽっかぽかさがしをしてみよう。そして、その話を身近な人と語り合おう。